



「きく」って大切！『きくこたけちゃん』登場!! 校長 二瓶 庄吾

夏休みが明けてひと月が過ぎ、秋を感じる頃となってきました。少しずつ過ごしやすいい気候になり、学校生活のリズムもとりもどして元気に学校生活を送られるようになる一方、さまざまな悩みや目には見えない不安等が膨らむ時期でもあります。そんな時には、だれかに相談をしたり話を聞いてもらったりすることで心が楽になることがあります。ひとりで抱え込まず、人とつながることが大切です。そして、そうしたコミュニケーションのなかでも、特に「きく」ことの重要性を感じます。

ある調査で、コミュニケーションの4大要素といわれる「読む」「書く」「話す」「きく」の中で、人が最も長い時間を費やしているのは「きく」という結果がありました。「きく」にもいろいろな「きく」があり、漢字の表現やその意味、使い方などが異なっています。

【聞く】 耳に入ってくる音や声を無意識にきく場合や、話を情報としてきく場合など、広く一般的に使われます。

【聴く】 注意深く(身を入れて)、あるいは進んで耳を傾けるなど、耳に入ってくる声や音の情報を積極的に理解しようとしている場合に使います。

漢字の成り立ちから、耳の象形と、目と心臓の象形で、耳を突き出し、「まっすぐな心でよくきく」ことを意味するとされています。また、「耳に十四の心(美しい・広い・楽しい・愛しい・感謝など)あり」ともいわれ、たくさん心を傾けるといふ考えもあります。

【訊く】 漢字のつくり「言」があるように、自分の疑問を明確にするために、分からないことを尋ねたり、問いただしたりするという意味があります。

まず相手の言葉を「聞く」ことから始まり、相手との理解を深め、より感情や言葉の意味を知るため耳と心を傾けて「聴く」、そして、必要に応じて質問を投げかけるなどしながら「訊く」。どの「きく」もコミュニケーションを円滑にするために重要なことですが、特に大切にしたいのは「聴く」だと考えます。言葉のうしろにある感情も含めて理解しようとする姿勢を一人ひとりが大切に、みんなが豊かにかかわりあえるようにしていきたいと思えます。

まったく違う意味ですが、こんな「きく」もあります。

【利く】 効果や効能が現れるという意味の他に、「十分に働く」や「～することができる」という意味でも使われます。

【効く】 効き目がある。効果や働きなどが現れる。など

さらにこんな「きく」も・・・

【菊】 9月9日(新暦では10月中頃)は五節句のうちのひとつ「重陽(ちょうよう)の節句」です。5月5日の「端午の節句」、3月3日の「桃の節句」のように「菊の節句」ともいわれています。菊の花はこれから見ごろを迎えます。

「聞く」「聴く」「訊く」ことができ、それが役に立ったり十分発揮されたりして「利く」ようになり、効果やよい結果に現れて「効く」ように、「菊」からデザインした『きくこたけちゃん』を考えました。しっかり「きく」ことができるようになることを願って!

